

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名		観光誘致促進事業費補助金		担当		産業港湾部観光振興室			
事業概要		観光協会は観光振興を推進する中核的存在としての役割が求められ、観光事業者等との調整・連携を図り、誘致宣伝、市民への観光理解の普及、ホスピタリティ向上などに取り組むことから、これら観光誘致促進の取組に対し補助金を交付する。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		9,930	千円	0.3	人	1,722	千円	11,652	千円
R7予算		9,911	千円	0.3	人	1,722	千円	11,633	千円
目標		観光振興を推進する中核的存在として、観光事業者等との調整・連携、誘致宣伝、市民への観光理解の普及、ホスピタリティ向上等を目的とする							
実績・効果		○民間連携により、自由度・柔軟性が増し、市が行うより効果的な事業推進が期待できる。 ○本市の観光客（日帰り・宿泊/道外・道内）及び観光消費額の増加が期待できる。 ○観光資源の掘り起こし・磨き上げ、サービスの質・量の改善、時間消費型観光の推進、情報発信の充実が期待できる							
点検・評価	点検項目		評価			評価の理由等			
	必要性		☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			観光事業がもたらす市内経済への影響が大きい。			
	妥当性		☐ 高い ☒ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			小樽観光協会は地域DMO登録を受けており、持続性のある実施体制が整っている。			
	有効性		☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			観光客動態調査にて実施したアンケートによる観光客の満足度が高い。			
	効率性		☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			国・道補助金、交付税措置など、一般財源以外の財源を確保している。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】									
＜小樽観光協会に係るDMO（観光地域づくり法人）の取組＞									
R3.3月 「候補DMO」登録 R4.6月 観光庁へ事業報告（観光地域づくり法人事業報告書）									
R4.8月 「登録DMO」申請 R4.10月 「登録DMO」登録									
観光客の提供するサービスの維持・向上等のための仕組みや体制の構築、地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション等多様な関係者との合意形成を図りながら活動。									

事業名 観光案内所運営費交付金			担当 産業港湾部観光振興室					
事業概要			JR小樽駅及び浅草橋、国際インフォメーションセンターにおける観光案内所を運営するための交付金。					
事業費(A)			概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	26,375	千円	0.3	人	1,722	千円	28,097	千円
R7予算	32,610	千円	0.3	人	1,722	千円	34,332	千円
目標			多種多様の要望に対し対面方式で個別に対応する観光案内サービスは重要であり、案内所運営の充実による観光ホスピタリティと小樽観光イメージアップを目的とする。					
実績・効果			・観光情報の提供により観光客の利便性の向上、観光ホスピタリティと小樽観光のイメージアップが期待できる。					
点検・評価	点検項目		評価		評価の理由等			
	必要性		☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い		多種多様の要望に対し対面方式で個別に対応する観光案内サービスの需要は高まっている。			
	妥当性		☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い		インパウンドの増加に合わせて通訳スタッフを配置するなど事業の質に向けた工夫、改善を行っている。			
	有効性		☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い		案内所を観光客が集中する複数個所に設けており、ニーズを過不足なく充足している。			
	効率性		☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い		同種の事業との重複がない。経営資源を無駄なく有効に活用している。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続			
【今後の方向性の説明】								
・継続的に観光案内所交付金として支出していく。								
・浅草橋案内所の除却にかかる経費の支出は、令和7年度限り。								

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名 観光マップ作成費補助金		担当 産業港湾部観光振興室	
事業概要		小樽観光協会が発行する、観光客の誘致、来樽観光客への観光案内に必要な観光マップ（無料）の制作費の一部を補助する。	
	事業費(A)	概算人工	人件費換算(B)
R6決算	4,600 千円	0.3 人	1,722 千円
R7予算	5,200 千円	0.3 人	1,722 千円
	トータルコスト(A)+(B)		
R6決算	6,322 千円		
R7予算	6,922 千円		
目標	小樽観光の道しるべとして、旅行満足度向上や、来樽前の動機付け、物産展等でのセールスツールとしての活用を目的とする。		
実績・効果	小樽観光の情報がコンパクトにまとまっており、観光客のみならず旅行会社からも問合せが多くあることから、観光客誘致にとっては大切なツールとなっている。		
点検・評価	点検項目	評価	評価の理由等
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかというと高い ☐ どちらかというと低い ☐ 低い	観光客のみならず旅行会社からも問合せが多くあることから、観光客誘致にとっては大切なツールとなっている。
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかというと高い ☐ どちらかというと低い ☐ 低い	毎年内容の見直し、改善を行っている。
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかというと高い ☐ どちらかというと低い ☐ 低い	飲食、グルメ、マップ等必要な情報が網羅され、多言語版も作成しており、ニーズを過不足なく充足している。
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかというと高い ☐ どちらかというと低い ☐ 低い	在庫管理を徹底し、在庫数により毎年必要部数を変更しているため、妥当な資源投入量である。
評価の結果を踏まえた今後の方向性			継続
【今後の方向性の説明】			
デジタル化や非接触が推奨される時流等の状況を鑑みて、マップの発行数については都度検討していく。			

事業名 朝里川温泉湯施設等整備事業費		担当 産業港湾部観光振興室	
事業概要		温泉の安定供給を図るため、昭和63年度以降、湯施設整備を行い、現在は2号井（ASR94）、新1号井（ASR02）の2本の井戸から8施設への配湯を行っている。水中ポンプの定期的な入替と点検を実施し、長期的な温泉供給体制の確実な維持を行うことで、地域内の観光振興を図ることを目的とする。	
	事業費(A)	概算人工	人件費換算(B)
R6決算	6,006 千円	0.07388 人	424 千円
R7予算	8,772 千円	0.07788 人	447 千円
	トータルコスト(A)+(B)		
R6決算	6,430 千円		
R7予算	9,219 千円		
目標	地域の主要な観光資源である温泉源泉の安定した供給を維持し、域内に訪れる観光客の満足度向上や観光客数増加を図る		
実績・効果	2つの源泉井について、隔年で水中ポンプの点検・入替を定期的に行っており、朝里川温泉地区8施設への安定した温泉の供給を保っている。温泉供給体制の確実な維持は、朝里川温泉地区の観光振興・観光客の満足度向上に繋がっている。		
点検・評価	点検項目	評価	評価の理由等
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかというと高い ☐ どちらかというと低い ☐ 低い	安定した温泉供給体制の維持のために必要不可欠
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかというと高い ☐ どちらかというと低い ☐ 低い	点検時に次回点検の時期について専門業者からの意見を仰いでいる
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかというと高い ☐ どちらかというと低い ☐ 低い	大きなトラブル等なく温泉供給が来ている
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかというと高い ☐ どちらかというと低い ☐ 低い	全額基金によって財源を確保している
評価の結果を踏まえた今後の方向性			継続
【今後の方向性の説明】			
温泉の安定的な供給には、設備のメンテナンスが必要である。今回実施する源泉井戸の水中モーターポンプの入替・分解点検に加え、今後、その他の機械、ポンプ室内電気設備、配湯設備についても、経年劣化の状況をみながら実施していく。			

令和 7 年度行政評価《事業評価調書》

事業名		鯨御殿管理代行業務費（債務負担分）			担当		産業港湾部観光振興室		
事業概要		北海道の有形文化財である小樽市鯨御殿は、祝津地区のシンボリックな存在で市民や観光客に親しまれており、安定的な施設の管理運営のため、指定管理業務としておたる水族館に委託している。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		6,587	千円	0.1	人	574	千円	7,161	千円
R7予算		6,815	千円	0.1	人	574	千円	7,389	千円
目標		入館者数の増、安定的な管理運営による祝津地区の魅力度向上							
実績・効果		入館者数 R 4 16,724人、R 5.9～R 6 休館、R 7.4～10 19,220人							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				歴史的価値の高い建造物で適切な維持管理をしなければならない。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				指定管理業務としての管理は妥当。			
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				祝津地区で隣接するおたる水族館への指定管理業務の委託は、効果的であり有効性が高い。			
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				おたる水族館の指定管理業務の委託は効率的。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】北海道の有形文化財で歴史的価値も高いことから、施設の適切な維持管理、安定的な運営をしていかなければならない。									

事業名			北前船日本遺産推進協議会負担金		担当		産業港湾部観光振興室		
事業概要		平成30年に本市が追加認定された日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の事業主体である北前船日本遺産推進協議会への負担金を支出し、各種事業を推進する。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		500	千円	0.3	人	1,722	千円	2,222	千円
R7予算		500	千円	0.3	人	1,722	千円	2,222	千円
目標		日本遺産「北前船」の①構成自治体に点在する文化財の把握とストーリーによるパッケージ化、②構成自治体全体としての一体的な整備・活用、③国内外への積極的かつ戦略的・効果的な発信を行い、地域活性化につなげる。							
実績・効果		R6に文化庁の総括評価を受けて、認定継続を受けている。本市の単独日本遺産「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」のストーリーを語るうえで、「北前船」のストーリーは欠かすことのできない要素であり、当市のブランド力をより高めている。							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				・日本遺産制度では、認定後も総括評価を受け続ける仕組みとなっており、事業の継続性がないと認定取消となる可能性がある。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				・明確な目標を設定し、その達成のための実施体制が整っている。			
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				・アンケートによる対象者の満足度が高い。 ・R6には日本遺産として認定継続されている。			
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				・交付税措置がある。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】									
日本遺産制度では、認定後も総括評価を受け続ける仕組みとなっており、評価次第で日本遺産の認定を取り消される場合もあることから、認定を維持するには、地域活性化計画事業の着実な実施が求められる。また、「北前船」の構成市であるためには、負担金の拠出が必要。									

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名		炭鉄港推進協議会負担金		担当		産業港湾部観光振興室			
事業概要		令和元年に認定された日本遺産「本邦国策を北海道に観よ！～北の産業革命『炭鉄港』～」の事業主体である炭鉄港推進協議会への負担金を支出し、構成自治体の連携のもと、観光振興及び地域活性化の推進を図る。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		100	千円	0.3	人	1,722	千円	1,822	千円
R7予算		100	千円	0.3	人	1,722	千円	1,822	千円
目標		①構成自治体に点在する文化財の把握とストーリーによるパッケージ化、②構成自治体全体としての一体的な整備・活用、③国内外への積極的かつ戦略的・効果的な発信に向けた各種							
実績・効果		R7に文化庁の総括評価を受けて、認定継続を受けている。本市の単独日本遺産「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」のストーリーを語るうえで、「炭鉄港」のストーリーは欠かすことのできない要素であり、当市のブランド力をより高めている。							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・日本遺産制度では、認定後も総括評価を受け続ける仕組みとなっており、事業の継続性がないと認定取り消しとなる可能性がある。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・明確な目標を設定し、その達成のための実施体制が整っている。			
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・アンケートによる対象者の満足度が高い。 ・R7には日本遺産として認定継続されている。			
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・交付税措置がある。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】									
日本遺産制度では、認定後も総括評価を受け続ける仕組みとなっており、評価次第で日本遺産の認定を取り消される場合もあることから、認定を維持するには、地域活性化計画事業の着実な実施が求められる。また、「炭鉄港」の構成市であるためには、負担金の拠出が必要。									

事業名		ロマネスクイルミネーション経費		担当		産業港湾部観光振興室			
事業概要		歴史的建造物のライトアップを行い、夜の小樽を魅力的に演出する。観光客の滞在時間延長に寄与し、観光消費額の増加を目的とする。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		1,934	千円	0.1	人	574	千円	2,508	千円
R7予算		1,175	千円	0.1	人	574	千円	1,749	千円
目標		宿泊者数の増、宿泊者の満足度の向上							
実績・効果		観光客の滞在時間延長に寄与し、当市の観光消費額増に貢献しているもの。							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				小樽観光の夜の事業として定着している。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				小樽観光の夜の事業として定着している。			
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				小樽観光の夜の事業として定着している。			
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				ライトアップされている倉庫、建物保有業者から電気料金の一部負担もあり効率的である。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】運河倉庫群のライトアップをはじめとする本事業は、小樽観光の夜の事業として定着しており、今後も継続して実施していかなければならない。									

令和 7 年度行政評価《事業評価調書》

事業名		歴史的風致維持向上計画推進経費		担当	建設部新幹線・まちづくり推進室				
事業概要		歴史まちづくり法に基づく歴史的風致維持向上計画を策定、認定を受け、国の支援制度を活用しながら、同計画に記載する各種事業を推進することで、本市固有の歴史的風致の維持向上を図る。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		2,602	千円	3.5	人	20,087	千円	22,689	千円
R7予算		8,352	千円	2.5	人	14,348	千円	22,700	千円
目標		令和 7 年度中に歴史的風致維持向上計画の策定及び国の認定を目指す。また、計画認定後は、重点区域内の歴史的風致形成建造物候補について、指定の手続きを進める。							
実績・効果		令和 7 年 7 月に国から計画の認定を受けた。これにより、国の支援制度の活用ができることとなった。							
点検・評価	点検項目	評価		評価の理由等					
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い		・市長公約に該当する事業である。 ・歴史的なまちなみの保全のほか、市民の郷土に対する誇りと愛着の醸成につながる。					
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い		・計画に記載する各種事業の進捗管理について、国への報告を要する。					
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い		・重点区域内の歴史的建造物を計画に基づく歴史的風致形成建造物に指定することで、国の交付金が活用でき、所有者の負担軽減につながる。					
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い		・計画の認定を受けたことで、今後、計画に記載する事業の実施の際に、国の支援の活用も可能となる。					
評価の結果を踏まえた今後の方向性				継続					
【今後の方向性の説明】 ・重点区域内において、歴史的風致形成建造物の指定を進め、歴史的なまちなみの保全を図る。 ・認定計画に記載する重点区域内の各種事業について、国の支援の活用を検討し取組を進め、歴史的風致の維持向上を図る。 ・国の支援制度の新規創設などの情報収集を行い、その活用の検討や計画変更などの準備作業を進める。									

事業名				担当					
事業概要									
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算			千円		人		千円		千円
R7予算			千円		人		千円		千円
目標									
実績・効果									
点検・評価	点検項目	評価		評価の理由等					
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い							
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い							
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い							
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い							
評価の結果を踏まえた今後の方向性									

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名		外国人観光客誘致広域連携事業費補助金		担当		産業港湾部観光振興室			
事業概要		小樽観光に関する情報発信、観光情報を盛り込んだプロモーションツールの作成、国際キャンペーンの開催、海外メディアの小樽への招聘や取材協力などに取り組む。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		5,100	千円	0.6	人	3,443	千円	8,543	千円
R7予算		6,618	千円	0.6	人	3,443	千円	10,061	千円
目標		○世界に小樽観光の魅力を発信し、訪日外国人観光客の誘致を推進するため、行政と経済団体で構成する小樽国際観光誘致実行委員会に対し補助することを目的とする。							
実績・効果		【効果】世界に小樽観光の魅力を発信することで、訪日外国人観光客の誘致促進が期待できる。インセンティブ旅行に係る受入体制の強化が期待できる。 【成果】悠悠北海道（小樽分）アクセス数 R5年209,010回、R6年307,336回（R1年度79,000回）							
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			本市の外国人宿泊客はR 5 年度から2 年連続で最多を更新しており、インバウンド需要は年々高まっている。				
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			独自性や先進性がある。事業の質の向上に向けた工夫、事業内容や実施方法の見直し、改善を行っている。				
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			事業の目標達成に向け、期待した効果（アウトカム。対象者や社会に与える影響）が表れている。				
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			国の補助金を活用。一般財源以外の財源を確保している。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続				
【今後の方向性の説明】									
○小樽市国際観光客誘致実行委員会 第9回インバウンド戦略部会（令和6年12月開催予定）									
○札幌連携中枢都市圏観光協議会（事務局：札幌市）									
構成：札幌、小樽、江別、岩見沢、千歳、恵庭、北広島、石狩、当別、新篠津、南幌、長沼									
負担：基礎 札幌5,000千円、札幌以外300千円（小樽も同様）←市負担									
上乗 札幌4,000千円、札幌以外300千円（小樽も同様）←実行委員会負担									

事業名		担当					
事業概要							
事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	千円		人		千円	0	千円
R7予算	千円		人		千円	0	千円
目標							
実績・効果							
点検・評価	点検項目	評価		評価の理由等			
	必要性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い					
	妥当性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い					
	有効性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い					
	効率性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い					
評価の結果を踏まえた今後の方向性							
【今後の方向性の説明】							

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名		日本遺産推進協議会補助金		担当		産業港湾部観光振興室			
事業概要		日本遺産「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽～「民の力」で創られ蘇った北の商都～」の事業主体である小樽市日本遺産推進協議会へ補助金を支出し、各種事業及び啓発事業を協議会が主体的に推進し、日本遺産を活用した地域活性化につなげる。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		3,000	千円	1.3	人	7,461	千円	10,461	千円
R7予算		6,645	千円	1.3	人	7,461	千円	14,106	千円
目標		協議会に補助金を支出し、安定的な体制の維持と効果的な事業運営を図ることで、日本遺産を活用した地域活性化計画に基づいた取り組みを推進し、日本遺産の継続的な認定へと繋げる。							
実績・効果		R3～R5に日本遺産候補地域となっていた「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽～「民の力」で創られ蘇った北の商都～」がR6に文化庁の審査を受け、R7.2に小樽市初の単独の日本遺産として認定された。							
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・日本遺産制度では、認定後も総括評価を受け続ける仕組みとなっており、事業の継続性がないと認定取り消しとなる可能性がある。				
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・明確な目標を設定し、その達成のための実施体制が整っている。				
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・アンケートによる対象者の満足度が高い。 ・R7に日本遺産に認定され、期待した効果が表れている。				
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・交付税措置がある。 ・文化庁の補助金の活用ができる。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続				
【今後の方向性の説明】									
日本遺産制度では、認定後も総括評価を受け続ける仕組みとなっており、評価次第で日本遺産の認定を取り消される場合もあることから、認定を維持するには、地域活性化計画事業の着実な実施が求められる。									

事業名 オーバーツーリズム対策事業費				担当 産業港湾部観光振興室					
事業概要		オーバーツーリズム対策として観光客が集中する一部地域への、警備員配置、注意喚起看板の作成、旅マエにおける注意喚起・マナー啓発等を行う。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		4,416	千円	0.9	人	5,165	千円	9,581	千円
R7予算		27,297	千円	1.5	人	8,609	千円	35,906	千円
目標		観光客の受入れと住民生活の質の確保を両立し、持続可能な観光地域づくりの実現を目的とする。							
実績・効果		旅マエ、旅ナカにおいて注意喚起・マナー啓発を行うことで、住民生活への影響の軽減、旅行者のマナー力の向上などが期待できる。							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				事業を縮小・廃止することによる、市民生活への影響が大きい。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				明確で妥当な目標が設定されている。			
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				事業の目標達成に向け、期待した効果（アウトカム。対象者や社会に与える影響）が表れている。			
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				国の補助金を活用。一般財源以外の財源を確保している。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】									
外国人観光客宿泊客数は過去最多を記録しており、コロナ禍以降多くの外国人観光客が本市を訪れていることから、今後も外国人観光客は増加することが見込まれるため、継続してオーバーツーリズム対策を講じる必要がある。									
観光客の受入れと住民生活の質の確保を両立し、持続可能な観光地域づくりを実現するため、小樽市オーバーツーリズム対策連絡協議会などにおいて情報を共有し、必要な対策を講じていくことが必要である。									